

平成24年度「黒岩知事との“対話の広場”地域版」(湘南会場)結果概要

■意見交換(マグネット地域)

知事／

素晴らしいですね、お二人とも。本当にお二人にお話をお願いして良かったなと思いました。

まだ石田さんは20代でしょう。すごいですね、こういう人が新しい農業の可能性をどんどん開発してくれるんじゃないですか。熊澤さんの「よっばらいが日本を豊かにする」という社訓は気に入りました。私は毎晩日本を豊かにしているという実感を持ちました。

石田さん、ジェラートというのは、シャーベットとは違うのですよね。

石田／

シャーベットというのはミルクが入っていないものです。ジェラートとアイスクリームの違いは、乳脂肪分の含有量の違いで、乳脂肪分が20%ぐらいものをアイスクリームといい、乳脂肪分が5%から6%のものがジェラートで、カロリーも低くヘルシーで、小さなお子さんでもペロンと食べちゃえるようなものです。

知事／

例えば噛むのが難しい方でもつるっと食べられるのですね。

石田／

そうです。ミルクや砂糖、果物もふんだんに使っているので、固いものを食べられないお年寄りも、簡単に栄養も取れるという特徴があります。

知事／

他の農家を巻き込んで活動されているのがすごいなと思います。皆にすごく感謝されているのではないですか。

石田／

みんな同じ年代で仲良くやっています。農家のためになっていると思うのは、ジェラート用なので、形が悪くても味が変わらなければ、それで同じ価値を提供できることです。

また、摘果して普通は捨ててしまうミカン^①も、普通のミカンより香りが強く、カボスやユズのような風味があるので、その特徴を生かしたジェラートを作っています。

知事／

石田さんのジェラート屋さん、お客さんが列をなしていると聞きましたが、もうかっていますか。

石田／

まだまだ、初年度ですので、初期投資の方を返していくのでいっぱいいっぱいです。

知事／

列が出来ているということは、一番分かりやすいマグネットだと思いませんか。わざわざそこに買いに来るわけです。しかも、牛乳も野菜も果物も地産地消で。魅力的だと、みんな集まってくる。まさに私が言っているマグネットです。素晴らしい仕掛けだと思います。

熊澤さん、私はビール党なんです。ビールをよく開発してくれました。最近、日本酒を飲まない方が多いのでは。

熊澤／

大量に飲む人が減ってるだけで、好きな層というのは、相当程度います。

知事／

日本酒の販売がうまく伸びていかないときは、パンの製造やレストラン経営へという、次々新しいものを手掛けていくきっかけは何ですか。

熊澤／

常にきっかけは、倒産しそうだったということ。やばいと思うと頭が動く感じです。

知事／

それは僕もしびれる話です。本当のパワーが出るのは、本物の危機感を感じたときまさにそうです。

さあ、こんな素晴らしいお二人がいらっしゃいます。ご質問でも結構ですし、私はこんなことやっているんだというPRでも結構です。どうぞ。

参加者発言1 (女性)

いろいろなことで許可の申請をしますが、なかなか許可が頂けない。お二人は、新しいことに取り組む際の許可の申請をどのようにしているのかお聞きしたい。

事例発表者発言 (石田氏)

許可に関しては、アイスクリーム類製造業許可を保健所に申請して取りました。保健所から、図面をこうしなさい、手洗い場を何個置きなさいと指示があり、それに従って図面を提出すれば取れるので、それほど苦労はしませんでした。

その一方で、資金集めで苦労しました。国の補助金を申請して、1次は通ったが、次で落とされた。そういった許可を取るのは凄くハードルが高いと思った。そこで諦めなかったのは、その目的が嫁の幸せであったり、農家さんの幸せであったり、本当にそれを実現したいという思いがあったからで、何のためにやるのかが明確であれば、道というのは開けると思います。

知事発言

自分の思いを成し遂げたいという強い思いが道を開いていくのでしょうか。皆さん、他に何か質問はありますか。高校生もどんどん発言してください。

参加者発言2 (秦野市・男性)

秦野でお茶を作っており、石田牧場のめぐりで、うちのお茶を使っていたいています。私と石田さんが出会ったのがちょうど2年前。静岡でお茶の勉強をして、家業を継いだが、モチベーションが上がらず、何のためにやるのか分からない時期がありました。

そんな時、石田さんがうちのお茶を使いたいと来てくれました。たくさんの消費者の方とつながれる機会をいただき、何のためにやるのかということ、石田さんはじめ、周りの農家の方に教えていただきました。

今、お茶摘みから加工して飲むまでを一日で体験していただくプログラムを行っています。体験を通じて、お茶づくりにはこんなに苦労があるんだということ、お茶のありがたみを知っていただきたいと思っています。

私は県内のお茶農家で一番の若手ですが、足柄茶を守るという面でも、皆さんの力を借りて、一所懸命取り組んでいきたいと思っています。

知事発言

石田さんと近い感性をお持ちですね。どういうふうに出会ったんですか。

事例発表者発言（石田氏）

農協新聞の、今年就農の秦野のお茶農家という紹介記事で知りました。熱い思いを持った人だと感じて、ぜひ会いたいと思い、秦野市農協に連絡先を教えてくださいと電話しました。

それまでは、僕もお茶を水代わりに飲んでいて、お茶作りにどういう苦労があるか想像しなかった。こういうふうに頑張ってる人がいるんだということを知り、これは伝えたいなと思って、ジェラートで使っています。

知事発言

新聞を見て、まず人物にひかれたわけですね。突然電話がかかってきて、どうでした。

参加者発言2（秦野市・男性）

秦野市農協から電話があって、とりあえず自宅の電話番号を伝えたら、すぐに電話がかかってきました。会ってみたら、かなり共通点があり、その場で意気投合しました。農業高校の先輩だったということも後々わかったのです。本当にこんなに熱い方が近くにおり、私も引っ張られる感じで活動しています。

知事発言

誰と出会うかが大事、そこはやっぱり感性なんでしょうね。人をパッと選ぶというか。

参加者発言3（伊勢原市・男性）

私も伊勢原市でトマトを栽培していて、石田牧場のめぐりでトマトのジェラートを扱っていただいています。

お二人は結婚されていると思うが、私もお二人のように、奥さんと一緒に、幸せに農業や仕事をやっていきたいという目標があります。どうしたら自営業の男が、奥さんと幸せに笑顔の絶えない結婚生活を送れるのかについて、アドバイスをお願いします。

事例発表者発言（熊澤氏）

うちの会社は、ある程度社員もいるので、妻の関わる範囲が石田さんとは違うかもしれませんが、自分の夢や、こんなことをしたいということを常日頃から言っていると、妻の方も同じような目標を持ってくれると思います。常日頃から、現在の仕事の話ばかりでなく、将来こんなことがしたいというようなことを言い続けていると、同じ目標に向かってくれるかなと思います。

事例発表者発言（石田氏）

出会いに関して言えば、農家は、ただでさえハードルが高いけれど、どんな職業でも、自分自身が仕事を楽しんで誇りを持っていれば、絶対、魅力になると思います。出会って一緒になってからは、多分、逆らわないことです。ハイハイと言って。それが大事なかなと思います。

知事発言

なかなかいいアドバイスですね。農業の新しい担い手がこう、3人並んで、頼もしい。従来型の農業の発想ではないですね。若手たちが触れ合って、新しいものを作っている。会場の皆さんも、ジェラートを買ってサポートしてください。

参加者発言 4 (男性)

2点伺います。私のイメージだと、地産地消はビジネスとして成功するのが難しいと思ったけれど、お二人の話を伺うと、ビジネスとして立派に軌道に乗って成功しています。何が成功に結びついたのか伺いたい。

2点目は、マグネット神奈川ということも含め、今後の事業の方針や農業のビジネス化について、考えを伺います。

事例発表者発言 (熊澤氏)

うちは地産地消に特化しているわけではないですが、地産地消に取り組んで良かったのは、顔が見えるとサービスをする人間が、誇りを持って仕事をするということです。海外の安いものを業者から買っているのとは違い、大事に食材を使うとか、お客さんに自信を持って商品を紹介するとか、そういうことは会社として価値があると思います。確かに直接的な収益は生みにくいけれど、会社には、後々、良い影響を与えていると思います。

事例発表者発言 (石田氏)

僕の方は始めて1年半で、成功と言うには程遠いと思います。僕が一番恵まれていたことは、絶対間違いない農産物を届けてくれる仲間が近くにいたことです。だから、地産地消という新たな方向に行きやすかったのだと思います。

もう一つの決め手は、熊澤さんもおっしゃってましたが、スタッフに尽きます。今の僕の思いをスタッフに言って、そのスタッフたちに、自分のやっているジェラートの一盛り一盛りが地域に貢献している、農家を豊かにし、お客さんも笑顔にできる、すごく誇りのある仕事なんだなと思ってもらうことが一番です。

参加者発言 5 (男性)

私は40数年間サラリーマンやって、今年定年退職しました。その中でも錢勘定の部門で、寝ても覚めても売り上げ、利益、そして資金、夢に悪夢を見るような状態でした。

事業というのは当然、売り上げ、利益というものもある。資金も人の育成も、企業の理念とか、そういうのがものすごく難しいと思います。若い石田さんにお聞きしたいのですが、3年後5年後、伊勢原の地区をどのようにまとめていこうかという長期プランみたいなのがあれば教えてください。

事例発表者発言 (石田氏)

現在は一日一日どうこなすのかが精一杯で、なかなか明確なビジョン、長期目標というのを立てることが難しいです。

地域の消費者と生産者をつなげたら、新たな可能性が出てくると思います。僕も一番初めは子どもたちと触れ合ったことで、お客さんがこんなに近くにいるんだと感ずることができました。仲間の農家も、新しい農家の見本を示したら、農業を継ごうか迷っている中高生も一歩踏み出せると思います。自分たちの活動によって若い農家さんたちが育ってくれればと考えております。

参加者発言 6 (男性・高校生)

2回ほど石田牧場で働かせていただき、自分も刺激を受けました。今、高校も最後の年で、自分としては、父や祖父と同じように農家になりたいと思っています。そして、

高校卒業後は、農業系に進学し、さらに海外に行って広い視野を身に付けたいと思っています。海外で研修する上での大切なことやポイントを教えてください。

事例発表者発言（石田氏）

海外に行く前は、言葉が分からなかったらどうしようとか、あれこれ考えますが、行けば何とかなるもの。まずは一歩踏み出すというのが重要です。行動すれば絶対何か見えてくると思います。

知事発言

行動がいろいろな形につながっているのかなと思います。ここに茅ヶ崎市長がお見えです。市長、どうですか。こういう若い人たちがいるということについて。

参加者発言7（茅ヶ崎市長）

市内には、こういう素晴らしい方がたくさんいらっしゃる。他の地域も同じでしょうが、茅ヶ崎では、こういう方々が本当にいろいろな活動をしている。そのことを多くの市民の方に知ってもらうことが大事だと思います。

石田さんが、最初に言われたように、神奈川県は、お客さんがすぐ近くにたくさんいます。それをチャンスと捉え、いろいろな仕事や業界で、皆さんに活躍していただけたらと思います。

知事や私は、行政という立場で、活動がもっと盛り上がっていくように工夫していかなければいけません。石田さんや熊澤さんにもどんどん提案していただきたいと思っています。